

## 新たな交流先候補実地調査結果と今後の取組みについて

## 1. 日程・出張者

	実地調査期間	訪問都市	出張者
フィンランド	平成29年 12月4日(月) ～8日(金)	ヘルシンキ、ポルボ ー、ビヒティ、エス ポー	国際課 1名 教育指導課 2名
台湾	平成29年 12月5日(火) ～8日(金)	高雄、台南	文化・芸術振興課 2名 国際課 1名 教育指導課 2名

## 2. 調査結果と今後の取組み

## (1) フィンランド共和国

## 実地調査結果

学校では、子どもが自ら調べ・考える主体性を重視した授業が進められており、机や椅子、ICT機器の配置等の教育環境とともに、図書館等の外部の機関との連携も図られている。

教員の派遣では、個に応じた指導方法や配慮を要する児童・生徒への対応、子ども同士がいきじめの仲裁に入る体制など独自の指導方法等を学ぶことで、指導力の向上が期待でき、区全体の学校教育の改善・充実につながることを期待できる。

子どもの派遣では、ホームステイをしながら現地の学校に通う経験を通じて、自分の目的をもって学ぶ姿勢や考え方を体感するとともに、コミュニケーションの手段として、英語が必要であることを実感できると考えられる。

## &lt;ビヒティ市&gt;

海外の教員の視察や子どもの交流、ホームステイ等の受入実績があり、交流について積極的な姿勢がある。特に、教員の研修については、学ぶことが多いという点から、前向きである。

## &lt;ポルポー市・エスポー市&gt;

具体的な交流の調整を進める意思があり、今後、子ども・教員の受け入れ等の可能性がある。

## 今後の取組み

子ども・教員による教育交流実施に向けて、まずは、平成30年度からビヒティ市の学校を中心に教員派遣(研修)を開始する。なお、平成31年度以降の交流の方向性については、平成30年度中に具体的な検討を行う。

## (2) 台湾

## 実地調査結果

日本からの距離が近く、時差もなく、気候も温暖。高雄市及び台南市をはじめ同国の南部は、文化・芸術、教育に積極的に取り組むとともに、図書館や音楽ホール、アジア最大のオペラハウスの建設等の文化・芸術のまちづくりにも力を入れている。

各施設の多文化・多言語対応、ボランティアの活用、醸成された寄付文化は参考となった。

日本との交流への期待が高く、様々な文化・芸術活動の交流や将来的に公立、私立を問わず、区内在住の子どもたちを対象とした幅広いテーマでの相互交流の実現が期待できる。

## &lt;高雄市&gt;

同市教育局が推薦する鳳山小学校、青年国民中学校は姉妹校での相互交流を望んでおり、英語教育、音楽交流、ボーイスカウト、クラブ活動、スポーツ等、様々な分野で交流の可能

性があり、これらを通じて国際社会を生き抜く人材育成を共に進めることが期待される。

<台南市>

国立台南芸術大学、国立台湾文学館、大道芸フェスティバルなど、多様な交流資源があり、大学連携、区の各事業担当者との意見交換等の交流の可能性がある。

今後の取り組みについて

文化・芸術、子どもの交流をはじめとした幅広い多様な交流に向けて、まずは、先方の訪問意欲を踏まえ、平成30年度は区立小・中学校での訪問受入れ、高雄市交響楽団附設青少年交響楽団の来日にあわせ交流を行う。また、平成31年度以降の交流の方向性については、フィンランドと同様に、平成30年度中に実施に向けた具体的な検討を行う。